



町おこしディレクターだより vol.9

都会の子どもたちを嵐山町に招待しました

嵐山町の皆さま。町おこしディレクターの神岡です。

7月25〜27日、2泊3日で、大田区、板橋区、北区、豊島区の小学生25名が、鎌形地区でキャンプを行いました。期間中は、穏やかな天気恵まれ、子どもたちも、そして、大人たちもたくさん思い出を作ることができました。

2日目は、我ら嵐山町のソウルフードである「めんこ打ち体験」。もちろん、農林61号を使用しました。小麦粉と塩と水から徐々に塊になっていく不思議な感覚を楽しんでいました。切が、嵐山町など比企地域の魅力です。普段、触れることのない水辺の生き物や、川での歩みにくさ。なんとなく都会よりも大きい（笑）など。見るもの全てを自分の「体験」に変えることのできる子どものパワーに憧れを抱きました。

初日は、自己紹介やルール説明などをして、鎌形地区にある古民家を見学。子どもたちは8歳〜12歳。古民家は150歳と伝えると、驚きや実感がわかない。当時の日本の暮らしを知ってもらおうことができ



都幾川で遊ぶ！浮かんだりもした！

めんこ打ち体験開始！

町おこしディレクターとは、嵐山町版地域おこし協力隊です。観光協会と地域支援課が協力しながら行っている事業です。 問合せ 地域支援課 政策創生担当 ☎62-2152

ふれあい交流センター

嵐山国際交流協会の和文文化体験が開催されました



和太鼓を介しての国際交流

7月7日、ふれあい交流センターにおいて、嵐山国際交流協会主催、和文文化体験が行われました。太鼓会「嵐」の皆さんを講師としてお招きし、約2時間におたつて演奏の披露と和太鼓の演奏の指南を外国人参加者にしていただきました。元気あふれるパフォーマンスに、参加者は目をまるくして「すごい、すごい」を口々に、大きな拍手を送っていました。

最後にお菓子や果物を食べながら歓談し、「嵐」の保護者の方々と嵐山国際交流協会の日本人会員も交えた53人で楽しい時間を過ごしました。

健康いきいき課

埼玉県救急電話相談をご存知ですか

間を過ごしました。日ごろ職業研修や日本語検定に向けての学習で忙しい中、和文文化に触れる機会は少ないので、今回とても有意義な体験ができたようでした。

問合せ ふれあい交流センター ☎62-2144

健康いきいき課

「ひきこもり研修会」を開催します

ひきこもりを経験した方から、その時の気持ちを聞き、ひきこもりから抜け出すヒントを見つけてみませんか。

日時 9月25日(火)

健康いきいき課

ハローワーク川越障害者就職面接会を行います

ひとりでも多くの方が雇用に繋がれることを目的として開催します。当日は、33社が参加する予定です。手話通訳もあります。

日時 9月21日(金) 13時〜16時

場所 坂戸市文化会館

内容 企業の人事担当者との

健康いきいき課

「らんざん募情」をご存知ですか

みなさん「らんざん募情」をご存知ですか。昭和57年に製作されたレコードですが、知る人は少ないようです。

「らんざん募情」
作詞・小久保太郎、作曲・渡辺岳夫、編曲・青木望、歌唱・三橋美智也

残念ながら、役場ではレコードは見当たりませんでした。將軍沢の金子章さんから情報提供をしていただき、音源は、情報提供者の金子さんのYouTubeにアップロードされています。

地域支援課

「らんざん募情」をご存知ですか

面接、就職相談
持ち物 障害者手帳（原本およびコピー）、履歴書（複数枚）、ハローワークカード

参加求人内容 ハローワーク東松山へお問い合わせください。

申込み ハローワークに求職登録の方は、事前申し込み不要です。直接必要書類を持参のうえ、ご来場ください。求職未登録の方は、ハローワーク東松山障害者担当へお問い合わせください。（☎22-0240）

問合せ 健康いきいき課 社会福祉担当 ☎62-0716

まちづくり整備課

東京都圏パースントリップ調査にご協力ください

県では、人の1日の動きを把握し、暮らしやすい都市づくりの検討を進めるため、9月から「東京都圏パースントリップ調査」を実施します。対象となるご家庭には、調査の依頼状を郵送しますので、お手元に届きましたら、ご協力をお願いします。

期間 9月〜12月

問合せ 埼玉県都市計画課 ☎048-830-5337

議会事務局

議員定数等に関する特別委員会公聴会中止について

8月19日に予定していた公聴会については、公述人の申し出がなかったため、中止となりました。

問合せ 議会事務局 ☎62-4587



町長室だより

胎動(夏まつり)

8月「嵐山夏まつり」で、今年も町は活気づけられました。

いつもの暑い祭りが、今年には特に酷暑のなかでの祭典となりました。

心配もしましたが、「熱中症・交通事故などがなくできました」役員さんから、有難く、うれしい報告がありました。

改めて関係者のご労苦を思い、万感の思いにひたりました。

「夏まつり」で町を元気にしたい…。関係者の、この「胎動」が原点でした。そしてこの精神こそ、祭りの元気の源となりました。

すべて自分達でやる。「実行委員会」の熱い気持ち。資金、資材、マンパワーの注入。

祭りがつくられていきま。実行者の得る知識・経験

達成感・人の和・来場者の満足感・町の知名度・イメージアップ・来場者の消費による経済効果・稼ぐ力が醸成されます。

しかしこれ等は枝葉です。本幹は、地域に新しい文化の風が吹き出すことです。祭りの内容も、役員の苦汁の研鑽が重なり、変化してきました。

地域の文化が元気を失うと、地域は閉塞し、やがて滅びます。常に新しい風を吹かせ続けることが地域おこしになります。

内部から「やる気」を噴出し、外部から新しい風を吹き込んでいく。

この力こそ持続的な地域おこしの力として、町の潜在力になります。

町制50周年を経て、町は新しいステージを目指しています。シンボルの嵐山駅の「嵐なび」「交流センター」で、冷気を感じながら疲れを癒し、整備された手洗所で体調を調べて「新しいらんざん」を皆で意識しながら祭りを満喫する。これこそ祭りの醍醐味ではないでしょうか。改めて祭りに参加した多くの人たちに感謝感謝です。